

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1丁目)

| | | | |
|---------|---------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2793100237 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人まんてん | | |
| 事業所名 | グループホームらんまん高殿 | | |
| 所在地 | 大阪市旭区高殿7-19-7 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年11月2日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年1月18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 |
| 訪問調査日 | 令和5年12月19日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>畳張りのシートの床、廊下、和のテイストのあたたかな空間でありながら、ICTなどの先端テクノロジーを駆使し、ご利用者の方々を見守ります。スタッフ間の情報共有をスムーズにし、ご利用者の身体と心の状態をより正確に把握することで安心安全に生活していただけます。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>事業主体は社会福祉法人で長浜市に本部があり、滋賀と大阪を中心にグループホームを含む各種老人介護福祉施設と保育園を開設している。法人理念は「のんびり、ゆったり、ほがらかに。いつまでも自分らしい生活のお手伝い。」としており、傘下の施設に周知している。当事業所は令和4年に3階建てで開設し、ショートステイとデイサービス(現在準備中)を併設している。床面には、一部畳敷きもあり家庭的な環境で暮らすことが出来る。また、最新の介護ICT機器(眠りSCAN、シルエット見守りセンサ、バイタルサイン自動記録介護ソフト)などを導入し、利用者の安全な暮らしに活用している。開設以来職員の交替が続き、利用者、家族に不安感を持たせた時もあったが、8月に就任した現管理者は、職員との話し合いを重ね、現場の声を活かし、利用者に寄り添ったケアの実現に向けて取り組んでいる。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスとしての意義をケア会議でも掘り下げて話し合い、地域での生活の重要性を意識したケアを行っている。 | 事業所理念は、法人理念と同じ「のんびり、ゆったり、ほがらかに。いつでも自分らしい生活のお手伝い」であるが、独自で事業所テーマを毎年作っており、今年度は「一人ひとりの笑顔を大切に、心でつながる思いやりのケア」としている。理念及び事業所テーマは1階の事務室に貼り、毎日の朝礼で職員全員が唱和し意識づけをしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域住人として町会行事等参加して頂くように促している。 町会の実施される「ふれあい喫茶」なども交流している。 | 自治会に加入しており、高殿まつりやふれあい喫茶などの地域行事には利用者が参加している。また、12月20日の事業所クリスマス会では、近隣の保育園児18名を招き利用者と一緒に歌うなど、交流をしている。事業所周辺での散歩や買い物で近隣の住民と出会う時には挨拶を交すなど地域との良好な関係づくりに努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | グループホームでの生活を地域の方やご利用される方々への公開、見学会の実施。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 提供している料理や自立支援(畑)の取り組みを地域の民生委員や町会、利用者家族に公開している。 | 会議は、年6回(内1回は書面会議)、社会福祉協議会、民生委員、地域住民代表(地権者)と事業所が参加し開催している。議題は入居者状況、活動報告と予定を写真を添えて報告した後話し合っている。会議録は全家族に送付している。今後は利用者、家族、自治会役員などに声掛けし、以前の会議メンバーに戻した開催を検討している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議を2か月に1回定期的に開催。施設の現状を伝えている。また認定調査の必要な状況下には利用者の状態を説明している。 | 旭区の介護保険課及び生活支援課とは、必要書類の提出を始め、毎月の介護用品の申請や利用者の歯科検診の手続きなど、各種手続きに関する助言や指導を得ている。その機会を利用して事業所運営状況を報告するようにしている。行政が参加している「旭ペンタ劇場」や「難ケースの検討会議」に参加するなど行政との関係を築くよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 月曜日から金曜日(9:00~18:00)見守りの範囲内で開錠をしている。職員においては勉強会などを通じてケアに生かすよう取り組んでいる。 | 「身体拘束廃止に関する指針」に基づき、3か月毎に身体拘束廃止対策委員会を開催している。研修会は、年2回高齢者虐待防止の内容も含めて開催し、拘束をしないケア方法について毎月のケア会議などで話し合っている。事業所開設以来拘束した例は無い。昼間は玄関やユニット出入口は開錠しているがカメラ設置などで見守る体制がある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修を通じて法令・虐待防止を学び、職員税員が認識をして虐待のないケアに取り組んでいる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 後見人の必要な利用者様の対応もスタッフ間で共有し支援を行っている。また研修を通じて、スタッフの認識の環境を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 家族様と時間をかけて話し合いや相談をし、ご利用者様にとって良い環境作りに取り組めるよう理解を得れるよう取り組んでいる。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族様の要望や意見があれば、職員間でケア会議で共有。ケアに必要な方向性を見つけたいけるよう努力し、運営に反映している。 | 家族の意見・要望は、面会時やラインアプリの活用を始め、介護用品を家族が持参するとき(義務付けしている)に声掛けをして把握に努めている。家族から投薬の量や種類変更などの要望があったが医師と相談し対応した例がある。利用者の様子を撮った写真をインスタグラムで発信しているが、「らんまん高殿便り」(現在休止中)の発行を再開する予定である。 | 事業所運営について、家族から高く評価する声があるが、開設以来管理者を始め職員の交替が続き、一部家族から不安の声が寄せられている。今後、職員の育成と定着率の向上を目指し運営体制の見直しと構築を図り、利用者、家族の安心と信頼を得る取り組みを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 利用者様のケアを通じて、職員の意見や方向性を見出すようケア会議を実施。また朝礼で各階の利用者情報を共有し、すみやかに対応できるようにしている。 | 管理者は、本年8月の就任の際の職員との個人面談や、毎日の朝礼や毎月のケア会議などで意見・要望を把握している。職員からは、勤務シフトの変更や、ケア方法の提案（入浴剤の活用や好みの食べ物の提供など）があり、要望に沿って対応している。今後2か月毎に個人面談を行い、意見を把握して運営に活かす予定である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各職員に面談をし、業務やケアの相談をできる環境を作っている。キャリアアップの研修など定期的に行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 理事長研修を実施し、法人の理念を理解する機会を設け、施設内の新入職員の説明を実践とオリエンテーションでトレーニングしていく働きかけをしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域連絡会に参加し交流を行っている。また参加した職員の報告を受け共有する取り組みをしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居にあたり、アセスメントを実施。本人の状況をわかる資料を基に傾聴・観察をして、本人の要望に添える関係を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族様の要望や意見があれば傾聴をする。また利用者様本人の認知症の状態を把握し、家族様とお話し、状況を伝えるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様のADLや認知症状の状態を把握し、自立支援をどのように支援するかを見極めて対応させて頂いている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自立支援の場を設けて、できる事をやって頂くように促している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 自立できていることの共有を家族様と行い。外出支援や、医療面での受診など協力体制を「行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会などの制限を設けず、ご利用者の支援に努めている。(コロナ・インフルエンザなどの感染症蔓延防止対策などの規制はある。) | 馴染みの人や場所は、入居時にフェイスシートを活用し把握している。友人や知人の面会希望者には、家族にも確認をとりながら対応している。職員は手紙や電話の取次ぎ支援をしているが、携帯電話を持ち込んでいる利用者もいる。新年を迎えたら初詣に行く予定であり、今後更に利用者個々の馴染みの場所への支援をして行きたいと考えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | フロアでの過ごし方として、体操や食後の歌などスタッフの介入もあるが、利用者同士のかかわり方をお声がけさせていただいている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスの利用が終了した場合でも、利用者様家族との関係を大切に相談や経過の情報を共有の支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様の意向を傾聴し家族様としっかりと話し合うことで、利用者様にとってより良い生活が出来るよう努めている。 | 入居時や日頃の利用者とのかかわりの中から思いや意見の把握に努めている。把握が難しい利用者(現在は殆どが思いを表出することが出来る)は、顔の表情や動作で判断し、家族等にも確認するようにしている。把握した内容は職員が申し送り事項としてそれぞれがタブレットに入力し、朝礼でも共有化して日々のケアに繋げている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時のアセスメントを行い、また入居前のアセスメントをケアマネと連携し情報収集し、ケアに反映できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 共同生活に馴染まない利用者様には個別の散歩や傾聴する空間を工夫するよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 居室担当者を決め、ご利用者様の変化に気づく事を理解し家族との意見をまとめる。ケア会議を行い、いろんな職員の目線をまとめてプランに反映できるよう努めている。 | 入居時に、利用者、家族から生活歴や要望を詳細に把握し、医師や看護師資格を有する職員の助言を得て、長期6か月、短期3か月の介護計画を作成している。モニタリングは短期計画更新時に合わせて3か月毎に実施しているが、利用者の状態変化や家族からの要望があれば、毎月のケア会議などで話し合い、都度計画に反映し日々のケアに繋げている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアパレットで全館共有する記録をもとに、情報共有を行っている。その際課題となる視点を介護計画のニーズに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様のニーズに気づくように日々の生活リズムだけでなく、自立度の理解をわかるようにレクリエーション活動や日常の掃除や食事の提供などの工夫に取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議に地域包括の職員と民生委員が参加して頂くことにより強化されています。ボランティアの情報や地域の行事や支援に関する情報など、協力関係を築いています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している | 事業所の協力医の他、利用者様からのかかりつけの医療が受けられるよう病院との連携と受診ができるように対応している。 | 協力医のクリニックの訪問があり一人を除く全員が月1回の診療を受けている。一人は従来からかかっていた医師が訪問してくれている。歯科は全員が年1回歯科検診を受け、その結果が必要があれば訪問で治療を受けている。家族への連絡は必要時電話で行っている。スタッフは申し送りで聞き、PCでも確認している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を当社グループの特別養護老親ホームの職員で配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に気付いたときには、相談と報告を密に行い、適切な医療に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には介護サマリー(退居時・入院時入居者状況)を医療機関に提供し、入院時には必要に応じて職員が見舞いに行くようにしている。家族様との状況等の情報交換をしながら、退院支援を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に看取りの説明を行い、終末期に向けた話し合いを行い、家族の精神状態の変化に合わせ柔軟に対応し、医師、看護師、職員が連携をとり、安心して納得した終末期を迎えられるよう、状態に合わせ、意思を確認しながら取り組んでいる。 | 事業所の方針としては食事が全介助になれば、退去してもらう方向で家族に説明している。法人内に特養があるので、便宜が図れる。希望があれば看取りも行うとしているが、まだ開設後日が浅く深く考えられてはいない。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルも準備している。救急搬送時には直に持参できるよう、最新の情報を作成し、受診用ファイルを用意し、緊急時に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災マニュアルや水害避難確保計画等を作成し、年に2回定期的に通報訓練、避難訓練を行っている。また、消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的実施している。 | 法定の訓練は消防署の委託を受けた自衛消防サポートセンターの立会いで利用者も参加して行われている。2、3階の避難はベランダ待機を助言されている。備蓄は3階倉庫に完備、事業継続計画は作成中。地域との連携はこれからの課題で運営推進会議を通じて進めていきたいとしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の尊厳を損なわない声掛けに注意し、排泄時や入浴時にも利用者のプライバシーが守れるように、個人によれば同姓介助も検討し行っている。 | 職員ヒヤリングからはスピーチロックに気を付けていると聞かれた。居室のドアは鍵付きで、開けっ放しでも長いのれんをつけて視線を遮っている。希望でドアを閉めている人、鍵をかけている人もいる。歩行が不安定でも、転倒のリスクより歩きたいという本人の思いを重視して支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常のリズムがそれぞれ違うが、一人ひとりの体調に合わせて、その日ご本人の気持ちを尊重し、ご本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日常のリズムをその方にあって入浴などの拒否や排泄の拒否なども本人様の希望に添えるように言葉かけや支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | モーニングケアや整容など、本人様の希望に合わせて支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 同じレシピでなく、ご利用者様の希望や季節に合った食材などを利用し、準備や食事の提供を行っている。また「おやつレク」や「食事レク」などの参加型の食事の提供を行っている。 | 食事はフロアごとに当日に担当になる職員が献立を決め、買い物に行き調理している。利用者の参加は活発で、野菜を切ったり、いためたり、配膳したり、洗い物したりする姿がみられた。ごはんと汁物は基本、自分で好きな量をよそっている。時には出前、テイクアウト、弁当などの利用もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の形態も含め利用者様の食事量を確認し提供している。水分量は定期的に配膳する場合もあるが必要な時に摂取できるようおいている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者様の状態に合わせ、スポンジや脱脂綿を使用したり、出来ない方に関しては、毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の衛生に努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックを活用し、時間を見計らって誘導したり、トイレでの排泄を大切にしながら、ケアを行っている。立位の取れない方も、日中リハビリをはいて頂き、トイレ誘導を行い、極カトイレでの排泄を行っている。 | 利用者の半数くらいは自分でトイレに行き来しているので見守りしている。その他は、声掛け、誘導、介助だがその人にあった方法をケア会議で検討し自立支援を心がけている。オムツ、パット類は持ち込みで価格面と面会の機会を確保するための法人の方針である。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェックを活用し、水分や食事量のチェックを行い、便秘にならないよう心掛け、腸の動きを良くするために散歩を実施している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 概ね曜日を決めています。利用者の意思を確認し入浴して頂いている。入浴を拒む入居者については、職員交替や時間を変えた対応を行い、利用者に合わせて対応を行っている。 | トイレ、ふろ、洗濯室が1線になった使いやすいつくりで床暖房で快適に保たれている。浴室は3方が空いて、てすりや補助機器で安全な入浴を提供している。重度になった場合は二人介助も行うが基本的には他の施設に移行を進める。時には入浴剤で温泉気分を味わう企画もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の個別の状態に合わせて、休息をとっていただくようにしています。眠剤を使用している利用者様には睡眠状態を眠りスキャンで把握し、安心して寝て頂くよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤内容の用紙を更新し、新しい情報の把握が出来る様努めている。変更があった場合には、ケアファイルを活用している。医療や薬局との連携をとれる体制を作っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 園芸花壇での作業を通して、季節の食事作りなど、経験や知識が発揮できる場面を作っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買物や散歩、個別で確認し、外出の機会を設けるよう努めている。 | 現在は毎日公園や買い物に出かけており、全員が週1回は外に出られている。家族と一緒に遠方に出かけたり、自宅に帰る人もいる。正月にはみんなで初詣に行くことも考えている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で管理できる方には自由に持たいただき、その方の状態に合わせ、買物時にお金を所持していただき、支払っていただいている。また、家族様ごとに様々な意向を持っているので、相談しながら支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | hitori |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を持っている利用者様はゆっくりと電話ができるよう居室で対応ができるようにしている。又、家族様、友人、知人からの電話は、その方に合わせ、支援を行ったり、居室で会話ができる様配慮している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアのテーブル席やテレビの配置など、利用者様と一緒に相談して、使いやすいように配慮している。 | 居間・食堂は外に面して明るく広々している。大きな空気清浄機が稼働し除菌している。フロアの壁は手作り作品などは飾られてなくて清楚に保たれている。幼稚園じゃないのだからという法人の考えだそう。1階に菜園があり、職員と利用者が管理しているいろいろな野菜が植えられていて収穫が楽しみである。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアにソファを設置し、ゆったりとできる空間を造り、テーブル席もその日の気分に合わせ、自由に過ごせるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には、使い慣れた物や好みの物を活かすように伝え、馴染みの物をおいていただくようお願いしている。 | 居室はベッド、大型クローゼット、洗面台、照明、空調、カーテンが揃っておりすぐにも生活ができるようになっている。入り口にかける長いのれんとテレビ、椅子、寝具などは好みのものを持参している。室内天井に物干しポールが設置されていて、自分の洗濯物を干せるようになっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 目印やものの配置に配慮し、混乱や失敗が生じた時には、都度職員と話し合い、混乱や不安を取り除けるように努めている。 | | |